

**宗家 柳之本の句**

\*柳之本とは長谷川長江の号

昭和7年(一九三二)〜50年(一九七五)

一世 長谷川長江(知道)

夏羽織畳の押しに金時計

二世 星野狐松(由松)

千代の色松に残して分れ霜

三世 高田田守(万次郎)

豆蔓のやたらに伸びて花二三

四世 泉田仙峰(金三郎)

雑草のはびこる儘に五月雨る

五世 中島花山(朝雄)

老いて子に復う炉辺の歌かるた

昭和51年 主幹 橋本紫浪(市三郎)

本地挽よ親音山よ海霧晴れ間

同年 主幹 石山香甫(与四逸)

かかる日を郭公晴れと言うならん

**他の俳諧**

**行行子会**

・大正〜昭和(一九二〇年代)で活動。大野小学校の木村喃

水(文助)や教員、実業家の中島、松代らが会員。同校同窓会誌

「同窓」に投句。

**光芒社**

・昭和42年(一九六七)発足。野本一路(幸雄)、中村透夢(長和)、

佐藤三刀味(俊郎)らが立ち上げる。

・同44年、町民作品展覧会参加。



**大野麦秋会 (主宰 國塚妙泉)**

・平成14年(二〇〇二)8月、大野町文化財保護研究会が立ち

上げ、同会員や錦風会会員らで発足した。大野町文化団体協

議会に加入。

・同15年1月号の町教育委員会広報「おおの」にサークル紹

介と会員の句が載った。

紅引くやそぞろに寒き鏡前	泉田木綿子
樹々靡く音の生まれる霜夜かな	垣口 好雄
落ち葉踏みゴンドラのぼる臥牛山	木下寿実夫
文化祭知人の書作夢一字	國塚 妙子
秋晴れやあれもこれも気忙しい	坂田 貞子
眠れぬ夜思い出重ね秋深し	杉目 京子
ビルの間の朱のナナカマド一、二本	足田 木依
落葉松も黄金の針を降りしきる	中村 春江
飛行雲一筋引いて秋の空	松本 和子
冬將軍みどりの庭も薄化粧	高坂 柳好
枯れ菊や古稀を迎えし吾もまた	金丸万梨子

- ・毎月句会を開く。毎年文化祭参加
- ・平成21年(二〇〇九)合同句集第一号発行

